

5) 研究談話会

第84回

- 1 開催日時 平成18年6月22日(木) 午後3時～5時
- 2 開催場所 衛生研究所 1階 講堂
- 3 演 題 「おたふくかぜワクチンについて」
感染疫学研究室 主席研究員 齋加 志津子
「大腸菌の病原因子と検査」
細菌研究室 室長 内村 眞佐子

第85回

- 1 開催日時 平成18年7月27日(木) 午後3時30分～
 - 2 開催場所 衛生研究所 1階 講堂
 - 3 演 題 「千葉県におけるピロリ菌感染の疫学と対策について」
がんセンター研究局疫学研究部 部長 三上 春夫
- 要 旨： 2005年10月3日「ヘリコバクター・ピロリ菌の発見と胃炎、胃・十二指腸かきようにおける役割の解明」に対してオーストラリアの2名の研究者にノーベル医学賞が授与されたことは記憶に新しい。1980年代前半に‘発見’されたピロリ菌は1994年にWHOによって胃がんの癌原性因子に認定され、2000年11月からは国内でもその除菌治療が潰瘍病名に対して認可されるなど重要性が認識されてきた。一方このような経緯と日本人高齢者での高い保菌率にもかかわらず感染症としての本態と広がりとは未だに十分に解明されたとはいえない。
- 疫学研究部では2000年以降千葉県内の市町村が実施する住民検診を対象に広域にピロリ菌感染の実態を調査してきた。千葉県がん登録の資料と併せて県内におけるピロリ菌感染の広がりや胃がんとの関連について、生活習慣を含めた疫学調査の結果を報告する。
- 今後の課題として、感染経路の特定と除菌治療によるがん予防効果の検討が挙げられる。県内では流行地を中心に未だに幼少時期の感染が蔓延しているものと考えられ、行政を含めた広範な対策が必要である。

第86回

- 1 日 時 平成18年10月5日(木) 午後3時～5時
 - 2 場 所 衛生研究所 1階 講堂
 - 3 演 題 「サポウイルス遺伝子検査法の確立と分子疫学的解析」
ウイルス研究室 研究員 岡田 峰幸
- サポウイルスは、主に小児に、嘔吐・下痢が主症状の急性胃腸炎を起こすウイルスであるが、これまで適切な検査法がなかったため、このウイルスによる急性胃腸炎の実態は不明であった。当室ではサポウイルスの遺伝子を元に、遺伝子検査の方法を確立し検査を実施した。
- 今回、サポウイルスの遺伝子検査方法と本県で検出したウイルスの遺伝子レベルでの多様性およびノロウイルスの遺伝子型について併せて報告する。

「健康福祉リソースセンター事業の現状と課題」

総務課(兼)健康疫学研究室 副主幹 小林 八重子

「健康福祉リソースセンター事業」は、衛生研究所の機能の一つである「公衆衛生等に係る情報の収集・蓄積及び解析並びに情報の提供」の機能強化に位置づけて、①県民への情報提供、②得られた資源の行政施策並びに関係機関の事業展開への有効活用を目的として、平成17年度から実施している。今回は、その進捗状況等について報告する。

第87回

- 1 日 時 平成18年11月30日(木) 午後3時～5時
- 2 場 所 衛生研究所 1階 講堂
- 3 演 題 「房総丘陵東部地域で観察されたヤマビル個体群の拡大現象」
医動物研究室 室長 藤曲 正登

房総丘陵のヤマビル個体群には、6～8年間隔の周期的な数（単位面積当たりの出現数）の変動が観察される。現在は1991年の調査開始以来3度目の拡大期にあり、昨年秋～今夏にかけて各地で観察された増加現象には、生息地の地形や気象条件、宿主動物の動向など複数の要因との関連が考えられた。

「病院及び福祉施設における施設内感染対策」

松戸健康福祉センター 副主幹 柴田 幸治

病院における院内感染、あるいは高齢者福祉施設等における施設内感染は、ともに易感染者集団での感染症発生の問題である。通常我々が業務上経験する市井で発生する赤痢や腸管出血性大腸菌感染症等では家族や接触者等への2次感染予防、あるいは食中毒対策としての食品衛生の監視業務といった形でその対策が行われているが、病院等における感染対策は内容が大きく異なるものとなる。

今回は院内感染対策を中心に、その概要と対策の一部を紹介し、また公衆衛生上の視点から今後の課題について触れる。

第88回

1 日 時 平成19年2月2日（金） 午後3時～5時

2 場 所 衛生研究所 1階 講堂

3 演 題 「千葉県における細菌感染症危機管理体制」

細菌研究室 上席研究員 横山 栄二

分子疫学的解析を利用した細菌感染症の集団発生の早期把握に基づく危機管理体制について解説する。

「薬用植物と生薬」

医薬品研究室 主席研究員 石井 俊靖

薬用植物は観賞用のものとは違い派手さはないが、四季折々に咲く花は質素で可憐な姿を見せてくれる。今回は、旧千葉県薬草園の1月から12月の各々の月に咲いている薬用植物などの中から日本薬局方収載生薬の植物を中心に紹介する。また、旧千葉県薬草園には500種類にもおよぶ生薬標本があり、これら生薬の写真も含め薬用植物とその生薬について解説する。

第89回

1 日 時 平成19年2月27日（火） 午後3時～5時

2 場 所 衛生研究所 1階 講堂

3 演 題 「リスクアセスメントについて」

健康疫学研究室 上席研究員 茂野 誠一

リスクアセスメントは、ハザードに起因するリスクの範囲と特性について科学的に評価を行うプロセスです。有害性同定、有害性の特性評価、曝露評価、リスクの特性評価の4段階から構成されます。リスクアセスメントについて、衛生研究所の食品に関連した調査事例を紹介しながら説明します。

「レジオネラ属菌の検出と同定におけるPCR法の検討」

生活環境研究室 主席研究員 平山 久子

現在、環境水（浴槽水、冷却塔水等）中のレジオネラ属菌の検出と同定には、吸引ろ過・酸処理後の培養とレジオネラ ラテックステスト等が行われている。この度、レジオネラ属菌の同定方法として血清群特異抗血清を用いたラテックステストとレジオネラ属菌特異的プライマーを用いたPCR法について比較検討した。濃縮試料から直接DNAを抽出し、感度の良い seminested PCR法を検討したので報告する。